

新たな県産ブランドとなる卵肉兼用鶏の開発

農業技術研究センター（養豚・養鶏担当）

キーワード：開発、タマシャモ、卵肉兼用鶏

1 技術の特徴

県内養鶏農家の多くは鶏卵の庭先販売を行っており、より収益性を高めるために、地域ブランドや商品の独自性といった高付加価値化が必要である。そこで、県が保有する肉用鶏「タマシャモ」の血統を引き継いだ新たな卵肉兼用種の開発を実施した。県内農家の約8割はケージ飼育をしているため、ケージ飼育に適した小型の体型、一般的な採卵鶏に近い産卵能力、庭先販売で好まれる丈夫な卵殻、シャモ卵の特徴である高い卵黄比率とうま味の強い成鶏肉等、卵も肉も農家の収益向上につながる卵肉兼用鶏を開発した。

2 技術内容

（1） 体型の小型化

小型化と高産卵性に改良するために小型高産卵鶏（ロードアイランドレッド）を活用し、タマシャモ原種鶏との最適な交配様式の選定を行った。原種鶏 25%・ロードアイランドレッド 75%の交配比率で作出することで、80週齢までの期間中、ピーク時の平均体重は2.47kgとなった。体重は一般赤玉銘柄鶏と比較して約1割程度重くなったがケージ飼育が可能な小型化を実現した（図1）。

（2） 産卵能力の評価

タマシャモ原種鶏の血統を引き継ぐため、一般赤玉銘柄鶏と比較して、平均卵重が小さく、日産卵量（1日1羽あたりの生産量）、飼料要求率（鶏卵を生産するために必要な飼料の量を示す比率）はやや劣る結果となった（表1）が、ヘンディ産卵率（一定期間における産卵個数を延べ羽数で割った値）、ヘンハウス産卵個数（一定期間における1羽あたりの産卵個数）は、ほぼ同等の能力を示した。

（3） 鶏卵の品質評価

20～80週齢間の平均卵殻強度は3.64kgfであり、市販鶏卵の強度とほぼ同等であった。

（4） 卵黄卵重比

50週齢時の卵黄卵重比は、ロードアイランドレッドの約1.1倍と有意に高い値を示した（図2）。

（5） 成鶏肉の品質評価

ムネ肉のイノシン酸含有量は、市販若鶏の約1.2倍であった（図3）。市販若鶏を基準（0点）として食味評価を行ったところ、こく、うま味、噛み応えで高い評価となった（図4）。

3 具体的データ

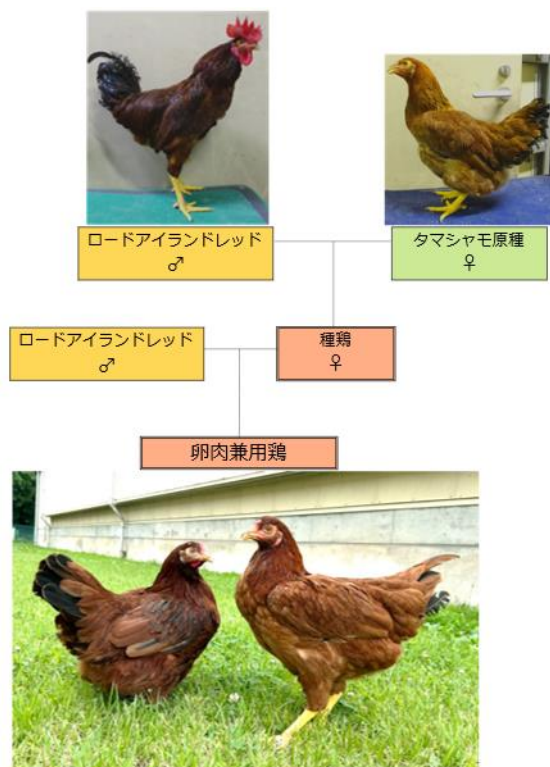


図1 卵肉兼用鶏の交配様式

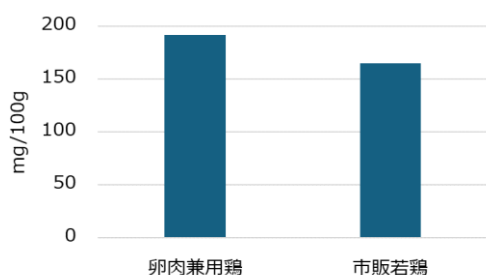


図3 ムネ肉中のイノシン酸含有量

表1 18～80週齢間の産卵成績

調査項目	測定値
生存率(%)	96.7
50%産卵日齢(日)	149
ヘンディ産卵率(%)	85.1
ヘンハウス産卵個数(個)	365
平均卵重(g)	
20週齢時	42.7
40週齢時	59.3
60週齢時	60.5
80週齢時	59.4
日産卵量(g/日羽)	49.5
1日1羽あたりの飼料摂取量(g)	
20～28週齢時	81～104
29～80週齢時	95～133
飼料要求率	2.2

*産卵率、産卵個数:二黄卵、ヒビ卵、破損卵を含む

平均卵重:正常卵、ヒビ卵の平均値

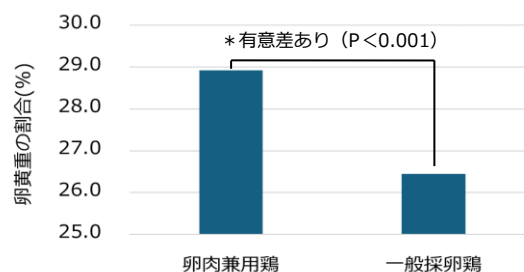
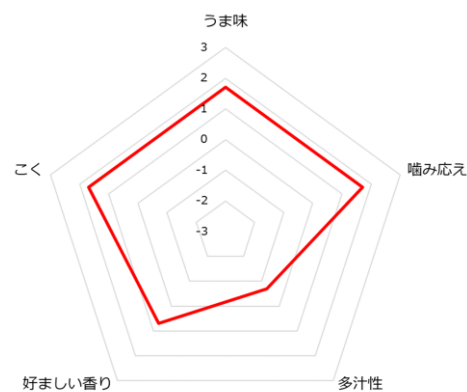


図2 卵黄卵重比 (50週齢時)



*調査機関:一般社団法人 食肉科学技術研究所

図4 食味評価成績

4 適用地域

県内全域 (2026年度から供給開始)

5 普及指導上の留意点

- (1) 一般的な多産鶏銘柄と同様の方法で飼育が可能。
- (2) 暑熱対策として、ケージ飼育の場合、23cm幅単飼ケージに1羽飼いを推奨。

6 試験課題名 (試験期間)、担当

卵肉いいとこどり開発研究事業 (2021～2025)、養豚・養鶏担当